

『畑に隠された宝』

'22/02/06

聖書箇所: マタイの福音書 13章 44-53節 (新約 p.27)

今日は、まず、皆さんにお詫びしないといけません。…実は、マタイ伝 13章からのメッセージは、2回、先週で終わるつもりだったのですが、それが終わってから、「マタイ 13章では、もう少し、イエス様の例え話が続けているのに、そこで終わるのは中途半端では？」と思ひまして、今日は、その最後の部分を、皆さんと一緒に学んでいきたいと思ひます。

命題: 本当に救われたクリスチャンたちに見られる、「神の恵み」とは？

さて、イエス様はマタイ 13章で、『天の御国』(≡救い)について教えるために、幾つかの「例え話」を話して下さって、それを私たちは学んできております。マタイ 13:11 で、イエス様ご自身が、「これは、天の御国に関する『奥義』である！」とおっしゃられたように、ここ 13章に記されてある教えは、2000年前の当時には、多くの者たちには明らかにされなかった…、まさしく、「救いに関する『奥義』」であります。

でも、皆さん、「感謝」だと思ひませんか？ だって、私たちは今、この聖書のみことばを通して、2000年前、あのイエス様の目の前に居ながら、多くの者たちが聞くことが許されなかった、「救いに関する奥義」を聞くことができるのですから…。でも、皆さん！ どうか、礼拝のメッセージを聞くことだけで、満足しないでください。イエス様が願っておられるのは、私たちが、ここで聞いたみことばを、「しっかりと理解し…、それを実践していくこと」であるからです。だから、イエス様は、あのマタイ 7章で、そういったことを衝撃的な表現でもって教えて下さったのです。そうでしょ？

今日、私たちは、マタイ 13:44-53のみことばから、あのイエス様が教えて下さった、「本当に救われたクリスチャンたちに見ることができる、神様の恵み」というものが、どういったものであるか？ ということを、と一緒に確認していきます。そうすることによって、まずは、私たちが、自分自身の信仰を吟味することができ…、今日、このメッセージを聴いて下さった人々からは誰一人、「実は、救われていなかった…」というようなことが、絶対に起こらないことを願ひます。

I・本当に救われた者たちに見られる、特徴！(44-46節)

まず、最初に確認していきたいポイントは、本当に救われた者たちに見られる、ある種の「特徴」について、であります。神様によって、本当に救われた者たちには皆、イエス様が教えて下さった、次のような特徴を共通して見ることができます。どうぞ、まずは、イエス様の話して下さったみことばを、と一緒に確認していきましょう。初めに、今回のみことばの内、44-46節を読ませていただきます。そこでは、イエス様が、こう話された、ということが記されてあります。

44 天の御国は、畑に隠された宝のようなものです。人はその宝を見つけると、それを隠しておいて、大喜びで帰り、持ち物を全部売り払ってその畑を買います。

45 また、天の御国は、良い真珠を捜している商人のようなものです。

46 すばらしい値うちの真珠の一つ見つけた者は、行って持ち物を全部売り払ってそれを買ってしまします。

●イエス様が、このことを話されるまでの経緯(=文脈)

どうぞ、まずは、ここに記されてある、『天の御国』という言葉に注目してください。この短いみことばの中で、イエス様は、2回も、『天の御国』という言葉を使っておられます。いえ、このみことばだけではありません。ここマタイ 13章の中で、イエス様は、合計8回も、『天の御国』という言葉を使って、救いに関す

る、重要な真理を語って下さっています。でも、一体どうして、イエス様は、そういったことを、ここで語って下さったのでしょうか？

それは、以前にもお話ししましたが、この直前のマタイ 12章からの文脈を見て下さったら分かります。どうぞ、マタイ 12章をお開きください。…そこをご覧くださいと、イエス様のことを、好ましく思っていなかったパリサイ人たちの対立を見ることが出来ます。どうぞ、14節をご覧ください。ここには、『パリサイ人は出て行って、どのようにしてイエスを滅ぼそうかと相談した。』とあって、もう既に、この時点で、パリサイ人たちが、イエス様のことを抹殺してやろう！ という目論みでいた、ということが分かります…。しかし、イエス様は、そういったパリサイ人たちの目論見をすべて分かった上で、彼らと正面切って、戦おうとはされませんでした。そういったことは、預言者イザヤが予め告げていた通り、イエス様は、争いをむやみに好まれるようなお方では無かったからです。

でも、注目していただきたいところは、特に、22節以降のみことばです。そこには、こうあります、『22 そのとき、悪霊につかれて、目も見えず、口もきけない人が連れて来られた。イエスが彼をいやされたので、その人はものを言い、目も見えるようになった。23 群衆はみな驚いて言った。「この人は、ダビデの子なのだろうか。」24 これを聞いたパリサイ人は言った。「この人は、ただ悪霊どものかしらベルゼブルの方で、悪霊どもを追い出しているだけだ。』」って…。

⇒皆さん、このくだりを分かって下さいます？ ここでも、イエス様は、ごく普通に、悪霊に憑かれて、目も見えず、口もきけない人を癒された、というのです。そして、それを見た群衆は、「このお方こそは、あのダビデの子…、約束の救い主なのだろうか？」という疑問を持つわけです。しかし、それを見たパリサイ人は、「このイエスは、悪霊どものかしらであって…、その悪霊の力でもって、悪霊を追い出したに過ぎない！」というようなことを言ったのです！

⇒それに対するイエス様の反論が、25節以降に記されてありますが、それについては、時間の関係もあって、今日は見ていきません。もし関心があれば、2020/10/4のYouTubeをご覧ください。しかし、今日、皆さんに分かっていただきたいことは、この時、パリサイ人たちは、とんでもなく、大きな過ちを犯してしまっていた！ ということです。ですから、どうぞ、31節以降に記されてある、イエス様の言葉に、ご注目ください。ここで、イエス様は、『31 だから、わたしはあなたがたに言います。人はどんな罪も冒瀆も赦していただけます。しかし、御霊に逆らう冒瀆は赦されません。32 また、人の子に逆らうことばを口にする者でも、赦されます。しかし、聖霊に逆らうことを言う者は、だれであっても、この世であろうと次に来る世であろうと、赦されません。』と言って、私たちが比較的犯しても良い罪？(≡赦される罪)と、そうではない、重大な罪(≡赦されない罪)について教えて下さっていますでしょ？…まさしく、この時、パリサイ人たちは、決して、赦されないような大きな罪を犯してしまっていたのです。

実は、このみことばは、非常に難解とされているみことばで…、いろんな解釈があるのですが、私は、この「赦されない罪」というのは、簡単に言うと、「真の神様のことを拒む罪」だと思ひます。だから、その人は、罪が赦されないし、救われ得ないのです。しかも、もう少し詳しく言いますと、「その人には、神様から素晴らしい真理が示されているのにも関わらず、それを悪い動機でもって、ことさらに否定すること…、しかも、そういったことを他の人に教える者は、決して、救われ得ない！」という意味だと、私は、現時点では考えています。

そして、その後で、イエス様の、こんな言葉が出てきます。33節、『木が良ければ、その実も良いとし、木が悪ければその実も悪いとしなさい。木のよしあしはその実によって知られるからです。』って…。つまり、「人は、その結ぶ実によって、ある程度の判断ができる！」という話です。…皆さんも、よくご存知のように、このことは、マタイ 7章で、イエス様が、「山上の説教」で結論として教えて下さったことで、聖書全体も、基本的には、これと同じことを語ってくれています。そうでしょ？

皆さん、一体どうして、イエス様が、あの「山上の説教」を語ってくださったか、分かります？⇒それは、当時、多くのユダヤ人たちが、大きな思い違いをしていたからです。その「山上の説教」で、イエス様は、こう教えてくださっています。マタイ 5:20、『まことに、あなたがたに告げます。もしあなたがたの義が、律法学者やパリサイ人の義にまさるものでないなら、あなたがたは決して天の御国に、入れません。』って…。ここでも、イエス様は、『天の御国』という言葉を使っておられますが…、要は、「当時の律法学者やパリサイ人たちが持っている程度の義では…、(あるいは)、彼らパリサイ人たちが教えてくれていることを信じて、人は救われ得ない！」ということ。…間違いなく、イエス様の、この言葉に、当時の民衆たちは、驚いたはず。だって、当時のユダヤ人たちは皆、「彼らパリサイ人たちは皆、救われている！」と信じていたから。だから、彼らは、「先生、先生！」と呼ばれて…、ユダヤ教の教師をしていたわけでしょう？…そのことを、今の私たちに当てはめると、まるで、「牧師たちが救われていない！」というような主旨のことを、イエス様が言われたということです。この当時、イエス様が言われたことは、それほど、衝撃的な言葉であったのです。

でも、皆さん、分かってくださいます？ こういった背景があったから…、こういった流れと言うか、必要性があったから…。だから、イエス様は、ここマタイ 13 章などで、本当に救われている者とそうでない者たちとの違いについて、詳しく…、幾つもの例えを使って、何度も教えてくださったのです。だって、何度も言いますが、当時のパリサイ人たちは、一見、救われているようで、実は、救われていなかったから…。

● 本当に救われた者たちに見られる優先順位

さあ、それでは、今日のみことばを見ていきましょう！ここ 44-46 節で、イエス様は、2つの例えを使って、本当に救われた者たちに見られる特徴と言うか、救われた者たちが取るはずの優先順位について教えてください。どうぞ、まずは、44 節に注目してくださいますか？

ここで、イエス様は、「天の御国とは、まるで、『畑に隠された宝のようなもの』である！」という話をされます。どういふことかと言いますと、「もしも、人が、その畑の中に隠された、非常に高価な宝を見付けると、それを隠しておいて…、何とんでも、自分の全財産を売り払っても、その畑を買おうとする」からです。要は、畑に隠されている宝の、本当の価値を知っているから、その人は、何を引き換えにしても…、その宝を手に入れようとするわけですよね？

ここで、皆さんに説明しておきたいことなのですが、ここで話されているようなことは、当時のユダヤでは、時々起こっていたことである、ということです。例えば、マタイ 25 章に記されてある、1タラントを預かったしもべは、そのタラントを無くさないように、地面の中に埋めておいた、と言っていますでしょ？…と言いますのも、この当時は、時々、火事や戦争などで、家の中に置いてあった財産が、被害を受けてしまうようなことがあったからです。

また、ここで説明されているような…、そこに埋まっている宝を、その土地と一緒に手に入れるようなことは、この当時、ユダヤ人たちの法律では、特に、問題では無かった…、所謂、違法行為では無かった、ということです。しかし、どうでしょう？畑の中に宝が隠されてあって…、それを隠しておいて、さも、自分が知らなかったように、その土地と宝と一緒に買ってしまふことが、フェアであると言い得るでしょうか？…言えませんよね(笑)。

でも、ここで焦点が当てられているのは、そういったことではありません。畑の中に、素晴らしい宝を見付けた人物は、少々の無理をしてでも…、何とかして、その宝を手に入れようとする！ということなのです。つまり、『天の御国』という救いに、本当の価値を見出した者は、自分が所有している何と交換してでも、必死になって、その救いを得ようとする！ということなのです。

それに続く、もう1つの、『良い真珠』に関する例えも、基本的には全く同じことを教えてくれています。本当に良い真珠を見付けた商人は…、その価値を、本当によく分かっている者は、例え、自分の全財産を売ってでも、それ以上に価値ある真珠を手に入れようとします。そうですね？

だって、皆さん。ある時に、イエス様は、それと同じようなことを、全く別の状況でも教えてくださっているでしょ？…どうぞ、皆さん。できましたら、前の画面に出てくるマルコ 10 章のみことばに注目してくださいませ？本当は、マルコ 10:28 以降を見たいのですが、どうぞ、その少し前、マルコ 10:17 以降をご覧ください。ここには、あの有名な「青年の役人」が、イエス様のところへ来て、『永遠のいのちを自分のものとして受けるためには、私は何をしたらよいでしょうか？』(マルコ 10:17)という質問をします。すると、イエス様は、それに対して、『…帰って、あなたの持ち物をみな売り払い、貧しい人たちに与えなさい。そうすれば、あなたは天に宝を積むこととなります。そのうえで、わたしについて来なさい。』(マルコ 10:21)という風に返されます。すると、この青年は、悲しみながら、そこを去っていったとあります。…と言うのも、この青年は、大変な金持ちであったから、と聖書のみことばは教えます。

もちろん、イエス様が、こんな風な返答をされたのには、それなりの理由があったわけなのですが、その後、イエス様とその弟子たちとの間で、こんなやり取りがなされます、マルコ 10:23-31、『23 イエスは、見回して、弟子たちに言われた。「裕福な者が神の国に入ることは、何とむずかしいことでしょう。」24 弟子たちは、イエスのことばに驚いた。しかし、イエスは重ねて、彼らに答えて言われた。「子たちよ。神の国に入ることは、何とむずかしいことでしょう。25 金持ちが神の国に入るよりは、らくだが針の穴を通るほうがもっとやさしい。」26 弟子たちは、ますます驚いて互いに言った。「それでは、だれが救われることができるのだろうか。」27 イエスは、彼らをじっと見て言われた。「それは人にはできないことですが、神は、そうではありません。どんなことでも、神にはできるのです。」28 ペテロがイエスにこう言い始めた。「ご覧ください。私たちは、何もかも捨てて、あなたに従ってまいりました。」29 イエスは言われた。「まことに、あなたがたに告げます。わたしのために、また福音のために、家、兄弟、姉妹、母、父、子、畑を捨てた者で、30 その百倍を受けない者はありません。今のこの時代には、家、兄弟、姉妹、母、子、畑を迫害の中で受け、後の世では永遠のいのちを受けます。31 しかし、先の者があとになり、あとの者が先になることが多いです。』

⇒皆さん、聴いてくださいました？特に、29-30 節のところ。ここで、イエス様は、わたしのために…、あるいは、福音のために、家、兄弟、姉妹、母、父、子、畑を捨てた者で、その百倍を受けない者はありません。今のこの時代には、家、兄弟、姉妹、母、子、畑を迫害の中で受け…、(ここから)後の世では永遠のいのちを受けます！ということを約束してくださっています。このように、後の世で、永遠のいのちを受けような者…、つまり、本当に救われた者たちは皆、イエス様と福音のためなら、自分の財産を捨てることさえいとわない！ということではないでしょうか？

また、イエス様は、これも教えてくださっています。マタイ 18:24-26、『24 それから、イエスは弟子たちに言われた。「だれでもわたしについて来たいと思うなら、自分を捨て、自分の十字架を負い、そしてわたしについて来なさい。25 いのちを救おうと思う者はそれを失い、わたしのためにいのちを失う者は、それを見いだすのです。26 人は、たとい全世界を手に入れても、まことのいのちを損じたら、何の得がありません。そのいのちを買い戻すのには、人はいったい何を差し出せばよいでしょう。」』って…。

⇒このように、イエス様は、救われたいと思うなら、まずは、自分自身を捨てて…、自分の十字架を負いながら…、その上で、イエス様に従ってくるよう、教えてくださいましたでしょ…。このように、私たちは、救われるに当たって、自分自身の持っておきたいものや守りたいものを、全部、捨てるだけの覚悟を持つべきことが教えられているのではないのでしょうか？(実際に、すべてを捨てるかどうかは別として…)

でも、本当に、「救い」というものの価値に気付いた者は、このみことばが教えてくれているように、例え、何を投げ出したとしても、救いを得ようとするのではないのでしょうか！だって、このみことばが教えてく

れているように、例え、この世のすべてを手に入れることができたとしても、死後、裁きに下ってしまっても良いのですか？…違いますでしょ！…このように、本当に救われた者というのは、救いというものが持つ、本当の価値に気付かされた者のことなのです。

また、皆さんは、パウロが、**ピリピ3章**で書き記した、**こんな証しも、よくご存知だと思います。そこには、こうあります、『8 それどころか、私の主であるキリスト・イエスを知っていることのすばらしさのゆえに、いっさいのことを損とと思っています。私はキリストのためにすべてのものを捨てて、それらをちりくたと思っています。…』**って…。もちろん、これは、パウロ個人の証しですけれども、このパウロが持っていたような思いや、その優先順位というべきものは、果たして、パウロだけの…、特別なものでしょうか？⇒違いますでしょ？

皆さんも、旧約の時代に起こった、**こんなエピソードをよくご存知だと思います。創世記19章**に記されてある、ロトの妻は、「決して、後ろを振り返ってはいけない！」という、御使いの命令を破って、後ろを振り返って、どうなりました？⇒彼女は、『**塩の柱**』になってしまったじゃないですか！まあ、これは、あくまでも、旧約時代の話ですけれども…。でも、このことは、現代に生きる私たちにとって、「すべてを捨てて、神様に従うか？あるいは、この世の未練のために、後ろを振り返ってしまって、神の怒りに触れてしまうか？」という二者択一がある！ということを見せてくれているのではないのでしょうか？どうぞ、今日、このメッセージを聴いてくださった皆さんには、ぜひ、本当に価値ある救いを、手にしていただきたいと思います。

II・本当に救われた者たちに起こる、出来事！(47-50節)

では、今度、その次に教えられてあります、**本当に救われた者たちに起こる、ある“出来事”について、皆さんと、一緒に観察していきたい**と思います。どうぞ、今日のみことばの内、47-50節をご覧ください。そこで、イエス様は、このように教えてくださいました。

47 また、天の御国は、海におろしてあらゆる種類の魚を集める地引き網のようなものです。

48 網がいっぱいになると岸に引き上げ、すわり込んで、良いものは器に入れ、悪いものは捨てるのです。

49 この世の終わりにもそうになります。御使いたちが来て、正しい者の中から悪い者をえり分け、

50 火の燃える炉に投げ込みます。彼らはそこで泣いて歯ざりするのです。

●『地引き網』漁の特徴

ここ47節でも、イエス様は、『**天の御国**』という言葉を使って、救いに関する真理について、分かり易くするために…(ここでは群衆は居ない)、例えを使って、話してくださっています。先程見た、畑に隠された宝にしても…、また、その次に記されてある、良い真珠にしても、その解き明かしを、弟子たちがイエス様に願っていないのは、**これらは皆、基本的には、同じことを教えてくれているから**です。だから、イエス様は、今日のみことばの**51節**で、**これらの(例え)話をすべてまとめて…、『あなたがたは、これらのことがみなわかりましたか？』**ということ、弟子たちに確認しておられるのです。

ここで、イエス様が使われた例えは、『**地引き網**』を使った漁でした。…でも、一体どうして、『**地引き網**』漁なのでしょう？⇒イエス様は、その理由も、ここで、はっきりと教えてくれています。それは、47節にあるように、『**地引き網**』漁が、海に網を降ろして、あらゆる種類の魚を集めるような漁であるからです。どうぞ、その次の**48節**も、**ご覧ください**。そのような地引き網漁は、『**網がいっぱいになると岸に引き上げ、すわり込んで、良いものは器に入れ、悪いものは捨てる…**』ということが、このみことばからも分かります。皆さんも、よくご存知のように、地引き網漁とは、大きな網を船で引っ張って、それで、その近辺にいる魚たちを、それこそ、一網打尽に捕まえますでしょ？

だから、漁の後で、その網の中を見てみると、それこそ、**たくさんの種類の魚やエビやタコなどが、いっぱい入っているわけ**です。イエス様がおっしゃるのも、そういうことです。まず、天の神様が、そういったような漁をされて、そこに**たくさんの魚**たちが、その網の中に入ってくるけれども…、でも、その全部が、必ずしも、救われるかと言うと、そうではないというわけです。

●『この世の終わり』に起こること

どうぞ、そこに続く、**49節**をご覧ください。そこには、**前に見たような、『世の終わり』に関する説明が、再度、なされてあります**。前回のメッセージでは、時間の関係もあって、あまり詳しくは説明できませんでしたが、実は、『**この世の終わり**』になりますと、まずは、『**毒麦**』、つまりは、救われていない者たちの方が、先に、この地上から取り去られてしまうのです。だから、今日のみことばでも、それと同じことが教えられてあるのです。

今日のみことばの**49節**をご覧くださいますと、そこに、**御使いたちが来て…、その後、何とあります？⇒『正しい者の中から悪い者をえり分け…』**とありますでしょ？つまり、まずは、救われて“いない”者たちの方が取り去られる、というのです。そうして、この地上に残された者たちの方が、救われるわけです。…ということは、つまり、このみことばは、**マタイ24-25章**に記されてあるような、「地上再臨」について教えられてあるのです。

これに対して、**Iテサロニケ4章**などで記されてある「**空中再臨**」の場合の分断というのは、決定的ではありません。…と言いますのも、この時、もしも仮に、この地上に取り残されたとしても、その後も救いは起こるので、もしも万が一、空中再臨の時、この地上に取り残されても、まだ、その人たちには、救いのチャンスがあるからです。しかし、地上再臨の場合は、そうではありません。空中再臨の場合とは違って、もしも、地上再臨の時、取り上げられてしまったら、もう、その人たちに救いのチャンスはありません…。だから、今日のみことばの**50節**でも…、また、少し前に見た、**マタイ13:40,42**などでも、その分断のすぐ後に、裁きについて語られてあるわけなのです。

一部のキリスト教会が信じている、「セカンドチャンス論」(=死後にも、救いのチャンスがある?)という考えですが、実は、今日のみことばからでも、その考えが聖書的ではないということが分かります。だって、この時(≡地上再臨の時)に、救われなかった者たちが、『**火の燃える炉**』に投げ込まれて…、『**彼らはそこで泣いて歯ざりする…**』ということが教えられてあるからです。

しかし、残念ながら、私たち人間には、誰が、本当には救われていて…、誰が救われていないのか？究極的には分かり得ません。でも、**だからこそ！私たちは、しっかりと、自分自身の信仰を…、また、罪を犯し続けて、悔い改めようとしない者たちの信仰を、吟味しないとイケないのです！**それは、私たちが、神様のことを疑っているからではありません。私たちが、そういったことをするのは、この中から、誰一人、間違っ、**「自分は救われている！」**と思いついた者たちを出さないためであるのと同時に、それは、天の神様のみことばでもあるから、なのです(マタイ18:12-14の文脈から)。

III・本当に救われた者たちに与えられる、理解！(51-53節)

じゃあ、最後、3つ目のポイントを見ていきたいです。ここで教えられてあるのは、**本当に救われた者たちに与えられる、“理解”**であります。どうぞ、今日のみことばの内、51-53節の部分をご覧ください。そこには、このようなことが記されてあります。

51 **あなたがたは、これらのことがみなわかりましたか。**」彼らは「はい」とイエスに言った。

52 **そこで、イエスは言われた。「だから、天の御国の弟子となった学者はみな、自分の倉から新しい物でも古い物でも取り出す一家の主人のようなものです。」**

53 これらのたとえを話し終えると、イエスはそこを去られた。

●『天の御国の弟子となった学者』とは？

先程見たように、ここで、イエス様は、その弟子たちに、これらの、一連の例えが言わんとしていることを、理解できましたか？ということを探ります。その質問に対して、弟子たちは、『はい』と答えたとありますが、もしも、彼らの答えが事実と違うものであったら、イエス様は、ご存知であつたでしょう。そうして、その後で、イエス様は、弟子たちに、こうおっしゃいます。52 節、『だから、天の御国の弟子となった学者はみな、自分の倉から新しい物でも古い物でも取り出す一家の主人のようなものです。』って…。

ここまで、イエス様は、弟子たちの質問に対して、懇切丁寧に、神の真理について…、また、救いの教理について、しっかりと教えてくださいました。恐らく、ここ 52 節で言われている、『天の御国の弟子』というのは、「イエス様の弟子たち」(ユダを除く?) のことではないでしょうか？彼らは、イエス様が、いろいろと救いについて、詳しく教えてくださったので、もう、その理解は、律法学者やパリサイ人以上のものであります。だから、イエス様は、ここで、弟子たちのことを指して、『天の御国の弟子となった学者…』という表現をしてくださったのではないのでしょうか？

もう、この時点で、弟子たちは、『新しい物でも古い物でも取り出す…』ことができるようになっています。恐らく、ここで言われている、『新しい物』というのは、イエス様から直接聞いた、新しい理解(≒新しい教え)のことを指し…、『古い物』というのは、パリサイ人たちや律法学者たちから聞いていた、古い理解(≒古い教え)のことを指しているのではないのでしょうか？感謝なことに、弟子たちは、イエス様から教えてもらったことで、それら両方の理解を持っていたのです。

もちろん、イエス様の弟子たちも、その理解が完全なわけではありません。しかし、イエス様から、直接、多くのことを教えてもらった弟子たちは、間違いなく、それまでの理解とは比べ物にならない程の理解を持つことができているはずですよ。

このように、神様によって、本当に救われた者たちは、その知識を、ますます、神様によって豊かにされていくのです。だって、例えば、ピリピ 1:6 では、『あなたがたのうちに良い働きを始められた方(≒天の神様)は、キリスト・イエスの日が来るまでにそれを完成させてくださる…』ということが教えられているじゃないですか！神様は、私たちのことを救って…、そのまましておかれるような御方ではありません。救った、私たちのことを、日々、キリストに似た者へと成長させていくくださるのです。

●救われた者に与えられる、霊的な知識

弟子たちだけではなく、今の時代の、私たちだって、イエス様の弟子たちと同様…、いえ、ひょっとしたら、それ以上に成長していくことができるかも知れません。だって、今の私たちに与えられている、聖書のみことばは、イエス様の時代以上だからです。私たちは、あのイエス様の弟子たちでさえ、聴くことができなかつた、パウロの証言や、使徒ヨハネが最後に残していった、預言の数々を知っています。

また、今の時代には、聖書のみことばが、簡単に、スマホでも読めるような時代です。しかも、私たちは、ここ 2000 年もの、長いキリスト教の歴史の中で、偉大な聖書研究者たちが遺していった、聖書解釈の遺産を学んでいくこともできます。しかも、私たちは、そういった学びを、そういったスキルさえあれば、スマホや PC 上で、簡単に学んでいくことができるのです。

こんな便利な…、こんなにたくさんの資料が与えられている、私たちは、幸いであると思います。だって、今の時代、私たちは、いくら聖書を勉強しても…、あるいは、伝道していても、それで捕まるような時代ではありませんでしょ？ここ日本では…。

<励ましの言葉>

かつて、預言者のアモスは、旧約の時代に、こんな預言を残しました。『見よ。その日が来る。——神である主の御告げ——その日、わたしは、この地にききんを送る。パンのききんではない。水に渴くのではない。実に、【主】のこぼるを聞くことのききんである。』(アモス 8:11) って…。確かに、イスラエルは、過去、このような、みことばの飢饉を経験しました。しかし！今の私たちは、私たちさえ望めば、いつでも、聖書のみことばを読むことができるし…、いつでも、時間を取って、自分だけでも…、また、スマホや PC などを使って、いくらでも、聖書研究することも…、伝道もできる！…そんな時代です。

要は、皆さん次第ですよ。イエス様が呼びかけられたように、皆さんが聞く耳を持っているかどうか？です。…果たして、あなたは、この聖書が教えてくれている、神の真理に通じていらっしゃるでしょうか？あるいは、信仰を持って、10 年も、20 年も経っているのに、まだまだ、信仰のイロハしか理解できていないクリスチャンでしょうか？それで満足しているクリスチャンでしょうか？…もしも、あなたさえ望むなら、神様は、間違いなく、あなたにも、もっと深い聖書の理解を与えて…、神様の良き働き人として用いてくださいます。どうか、願わくは、今日、このメッセージを聴いてくださった皆さんが、しっかりと、救いの確信を持つことができ…、そのことを、他の人たちにも分かり易く伝えることができるような証し人となっていただくことを願います。最後に、お祈りをもって、今日のメッセージを終わらせていただきます。